

事業者アンケート 報告書

平成 24 年 8 月

企画グループ

1. 調査概要

◇ 調査の目的

協会けんぽの財政基盤強化に向けた取組みの一環として、難しく分かりにくい医療保険制度の仕組みをアンケート調査を通じて、財政基盤強化や高齢者医療制度の見直しの必要性などについて事業者を理解していただき、協会けんぽへの共感・支持を深めていただくとともに、中小企業および小規模事業者の多い加入事業者の意見を収集し、関係者への発信材料とする。

◇ 調査対象：協会けんぽ加入の事業者

◇ 調査方法：調査票を本部企画グループで作成。支部ごとの回収目標数を 100 件（調査票の回収は 1 事業所につき 1 件）とした。

◇ 実施期間：平成 24 年 4 月下旬～7 月上旬

◇ 質問内容

～構成（択一式 4 問、意見記入欄 1）～

- ・医療保険者ごとに異なる保険料率について（選択式）
- ・高齢者医療と現役世代の負担について（選択式）
- ・長期的に増え続ける医療費について（選択式）
- ・医療費適正化のために行っている取組みについて（選択式）
- ・協会けんぽの財政基盤強化のために有効と思われる策について（自由記入）

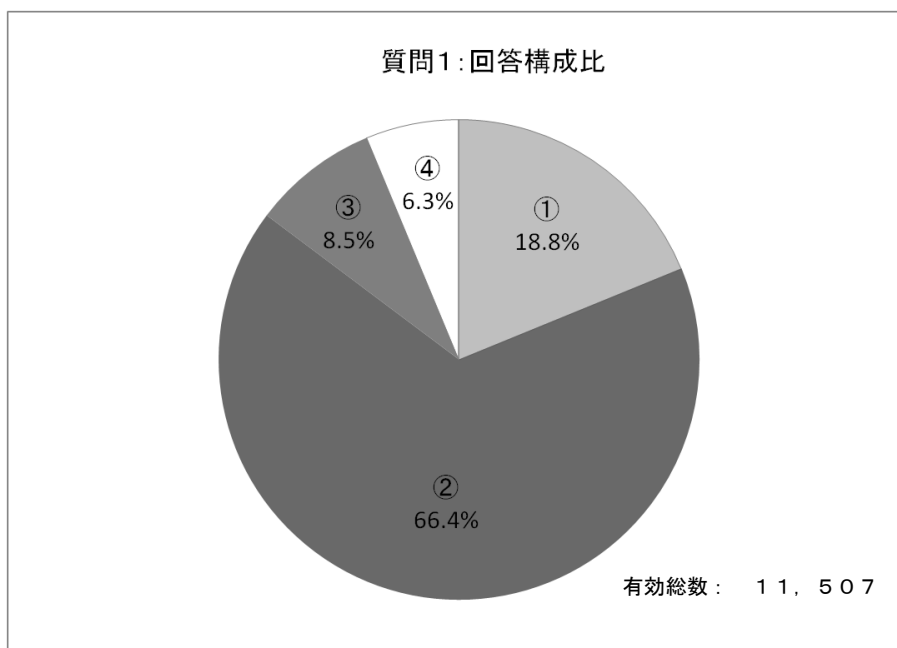
◇ 合計回収数：11,590 件（事業者）

2. 調査結果

(1) 医療保険者ごとに異なる保険料率について

■医療保険者は必要な医療費を賄うため、加入者の給与に一定の料率をかけて保険料をいただいております。このため、各医療保険者の収入の違いが料率の差につながりますが、これについてあなたのお考えに最も近いのは次のどれでしょうか。（回答は一つを選択）

選択項目	有効回答数
①保険料率は医療保険者の財政力に影響されるので、料率の格差はやむを得ない。	2,165
②使う医療費は同程度なのに、保険料率に格差があるのは公平ではなく、国は協会けんぽへの公費投入を拡大して、差が広がらないようにすべき。	7,644
③公費にあまり頼らず、サラリーマンが加入する医療保険者同士で支えあうことを考えるべき。	977
④その他（自由記載）	721

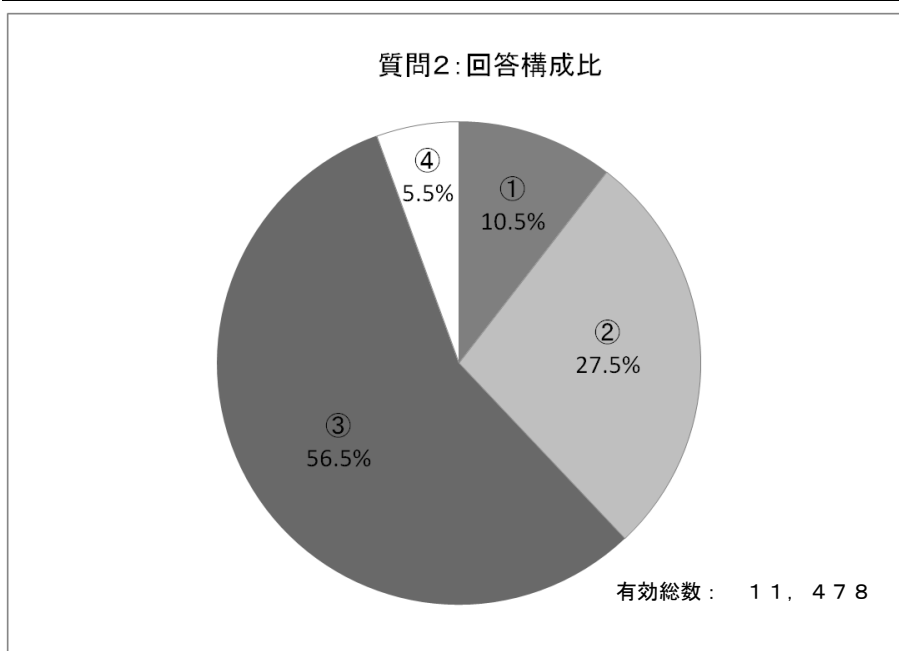


- ②の「公費投入を拡大して、差が広がらないようにすべき」を選択した者が 66.4%と約3分の2を占め、①の「料率の格差はやむを得ない」が 18.8%、③の「サラリーマンが加入する医療保険者同士で支えあう」が 8.5%であった。
- ④の「その他」を選択した自由記載では、医療保険者の一元化や保険料率の一本化を望む内容が多かった。

(2) 高齢者医療と現役世代の負担について

■ 少子高齢化の中で、今後も高齢者医療の負担は増えていくと予想されますが、あなたのお考えに最も近いのは次のどれでしょうか。(回答は一つを選択)

選択項目	有効回答数
① 自分も将来高齢者になるのだから、現役のサラリーマンと事業主が負担するのはやむを得ない。	1,203
② 現役のサラリーマンと事業主の負担は限界であり、高齢者の保険料の引上げや窓口負担増で対応すべき。	3,153
③ 高齢者も現役のサラリーマン・事業主も負担は限界であり、公費による支援を増やすべき。	6,487
④ その他(自由記載)	635

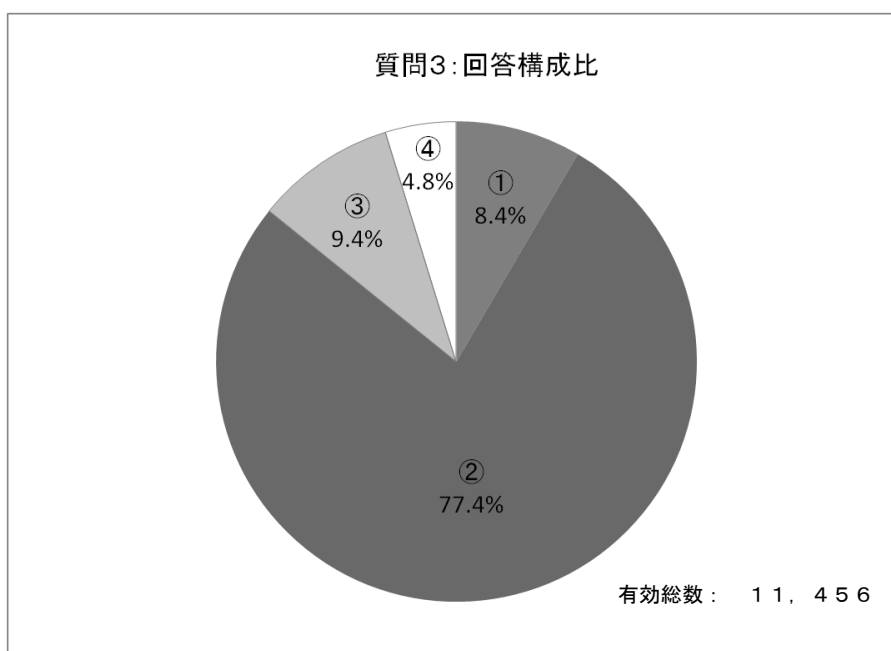


- ③の「公費による支援を増やすべき」を選択した者が56.5%と過半数を占め、②の「高齢者の保険料の引上げや窓口負担増で対応すべき」が27.5%、①の「現役世代が負担する」が10.5%であった。
- ④の「その他」を選択した自由記載では、①,②,③のうち複数の方法を併用するという意見が多かった。

(3) 長期的に増え続ける医療費について

■人口の高齢化、医療の高度化等により、今後も増え続けると予想される医療費について、あなたのお考えに最も近いのは次のどれでしょうか。(回答は一つを選択)

選択項目	有効回答数
①質の高い医療を受けるためならば、保険料が上がるのはやむを得ない。	965
②医療の内容を見直し、効率化を進めて医療費の伸びを抑制すべきである。	8,865
③医療を受ける患者の窓口負担を増やすべきである。	1,082
④その他(自由記載)	544



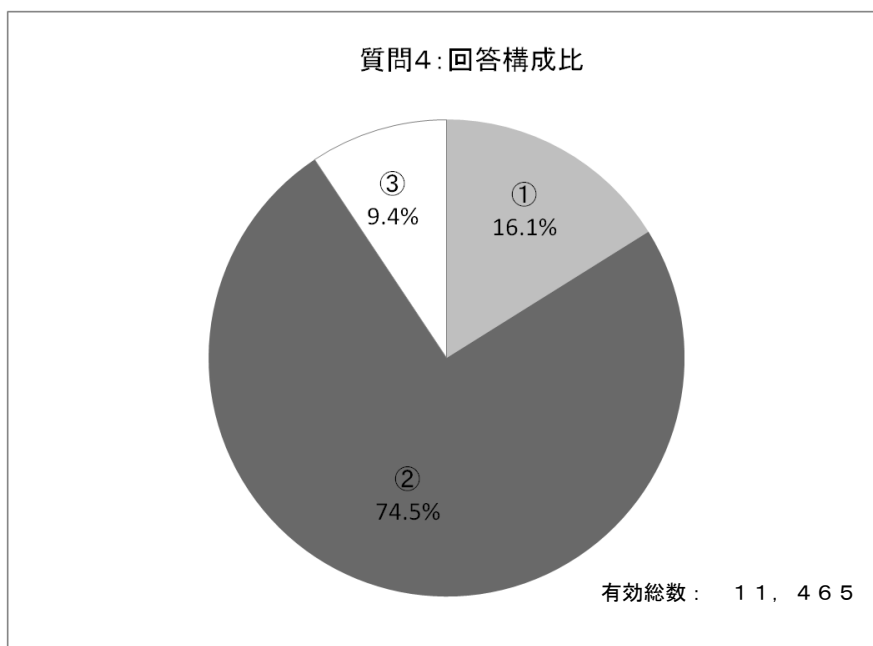
- ②の「医療の内容を見直し、効率化を進めて医療費の伸びを抑制する」を選択した者が77.4%と全体の4分の3を超え、③の「患者の窓口負担を増やす」(9.4%)と①の「質の高い医療を受けるため、保険料が上がるのはやむを得ない」(8.4%)がそれぞれ1割弱であった。
- ④の「その他」を選択した自由記載の例として、病気予防に注力する、延命治療や高齢者に対する医療のあり方を再考すべき、公費による支援を増やす、などがあつた。

(4) 医療費適正化のために行っている取組みについて

■協会けんぽは皆様の保険料を使って各種の取組み(※)を行い、医療費の適正化に努めています。これについて、あなたのお考えに最も近いのは次のどれでしょうか。

(回答は一つを選択)

選択項目	有効回答数
①保険料を使ってまで行うことではなく、やめるべきである。	1,846
②費用対効果が見込めるのであれば、お金をかけてもやるべきである。	8,547
③その他 (自由記載)	1,072



- ②の「費用対効果が見込めるのであれば、やるべき」を選択した者が 74.5%と約4分の3を占めた。一方で①の「やめるべき」は 16.1%と6人に1人が選択している結果となった。
- ③の「その他」を選択した自由記載では、①と②の両方の観点が必要である、例示した取組み内容の中に必要なものと不要なものがあるという記述、特に個別の内容に関しては、医療費のお知らせの必要性に疑問を呈する記述が多かった。

※ 調査票では、医療費適正化のために行っている取組みの例として、保健指導や健康相談、ジェネリック医薬品の使用促進、医療費のお知らせ、加入者資格の再確認、レセプト点検を例示した。

(5) 協会けんぽの財政基盤強化のために有効と思われる策について

■この他、協会けんぽの財政基盤強化のために有効と思われる策についてなど、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

- 記入件数は 1,489 件。記入割合は 12.9%であり、8 人に 1 人が何らかの記入を行っている。
- 内容は、協会けんぽに好意的なご意見、厳しいご意見、前述の質問 1～4 に関連した回答の繰り返しなど、多岐にわたっている。(資料編参照)

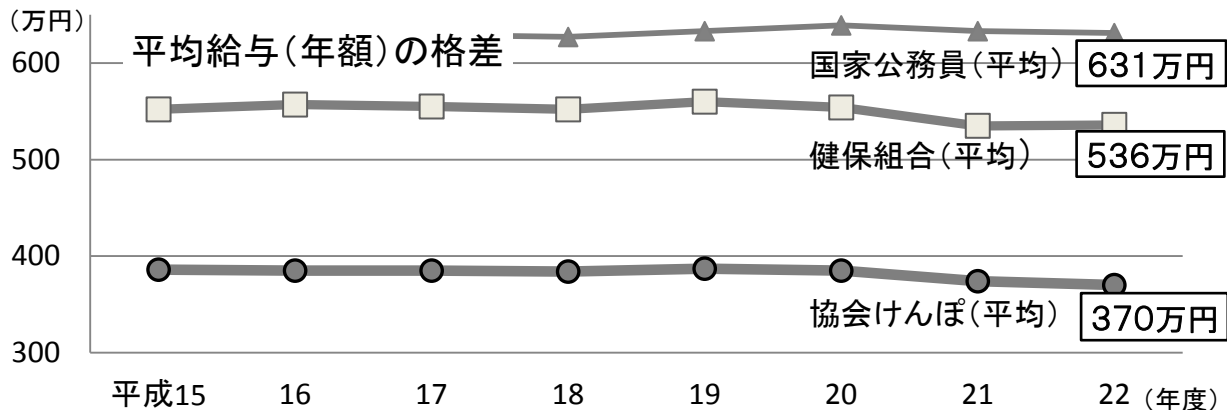
《資料編》

1. 調査票 (4 頁)
2. 自由記載、自由記入の実例
 - ・ 質問 1 の「その他」選択記述 (9 頁)
 - ・ 質問 2 の「その他」選択記述 (8 頁)
 - ・ 質問 3 の「その他」選択記述 (7 頁)
 - ・ 質問 4 の「その他」選択記述 (13 頁)
 - ・ 「自由記入欄」 (25 頁)

【アンケートご協力のお願い】

お忙しいところ恐縮ですが、次の質問にご回答いただきますようお願いいたします。

1. 医療保険者ごとに異なる保険料率



⇒ 加入者の平均給与の差により、医療保険者の保険料収入に違いが生じます。一方、使っている一人当たりの医療費は同じ程度です。医療保険者は加入者の医療費を賄えるまで保険料率を引き上げて収支が合うようにします。

医療保険者	協会けんぽ	健保組合	共済組合
被保険者	主として中小企業のサラリーマン	主として大企業のサラリーマン	国家公務員・地方公務員・私立学校職員
保険料率	全国平均 10.00% 平成24年度	平均 7.93% 平成23年度予算平均	国共済平均 7.06%* *国共済 平成22年度

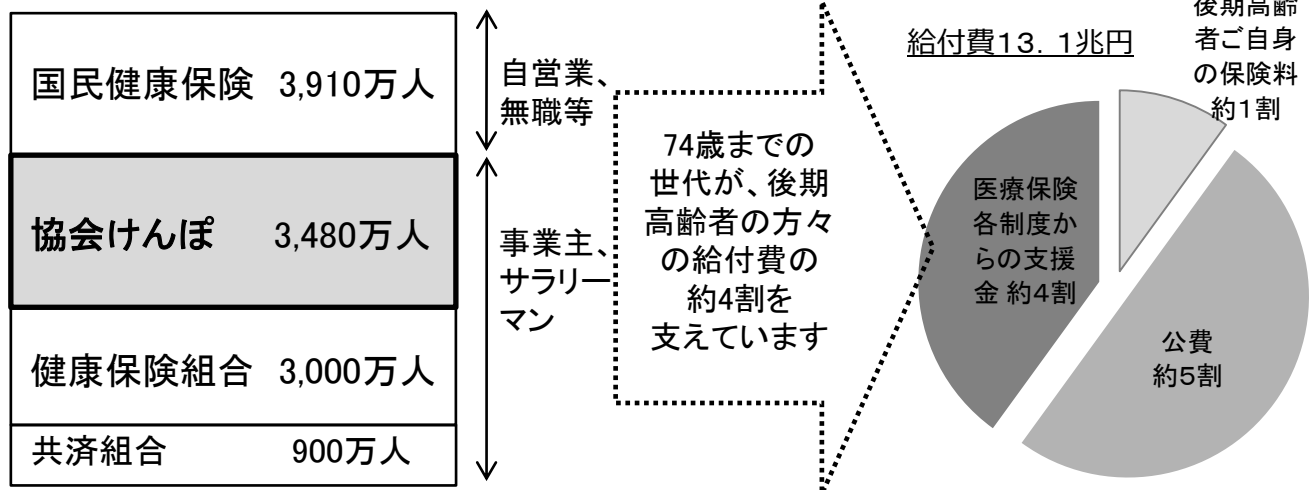
質問1. 医療保険者は必要な医療費を賄うため、加入者の給与に一定の料率をかけて保険料をいただいております。このため、各医療保険者の収入の違いが料率の差につながりますが、これについてあなたのお考えに最も近いのは次のどれでしょうか。（一つ選んで☑をお付けください）

<input type="checkbox"/>	①保険料率は医療保険者の財政力に影響されるので、料率の格差はやむを得ない。
<input type="checkbox"/>	②使う医療費は同程度なのに、保険料率に格差があるのは公平ではなく、国は協会けんぽへの公費投入を拡大して、差が広がらないようにすべき。
<input type="checkbox"/>	③公費にあまり頼らず、サラリーマンが加入する医療保険者同士で支えあうことを考えるべき。
<input type="checkbox"/>	④その他(枠内に自由記載)

2. 高齢者医療と現役世代の負担

75歳以上 = 後期高齢者医療制度 1,390万人

後期高齢者医療費を支える財源の内訳



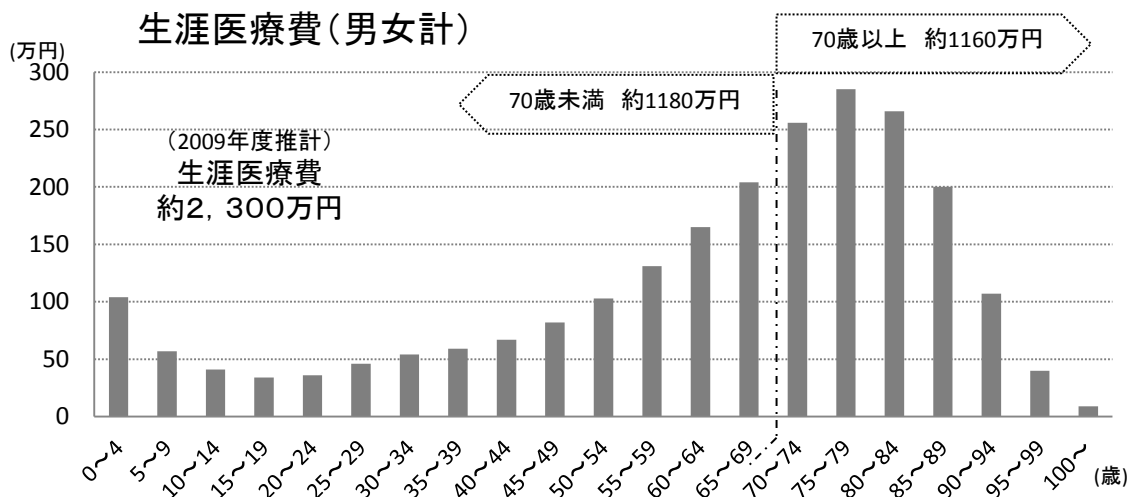
○高齢者の医療費を、社会全体で支えています。

○協会けんぽの財政収支において、後期高齢者医療を含む高齢者医療への支出は、全支出の約4割を占めています。

質問2. 少子高齢化の中で、今後も高齢者医療の負担は増えていくと予想されますが、あなたのお考えに最も近いのは次のどれでしょうか。（一つ選んで☑をお付けください）

	①自分も将来高齢者になるのだから、現役のサラリーマンと事業主が負担するのはやむを得ない。
	②現役のサラリーマンと事業主の負担は限界であり、高齢者の保険料の引上げや窓口負担増で対応すべき。
	③高齢者も現役のサラリーマン・事業主も負担は限界であり、公費による支援を増やすべき。
	④その他(枠内に自由記載)

3. 長期的に増え続ける医療費

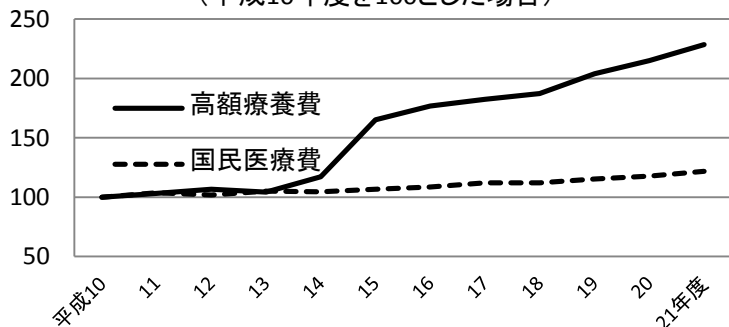


○一人が生涯で必要になる平均医療費は、約2,300万円です。

70歳以下にかかる医療費は、生涯医療費の約半分にあたります。

○新しい治療技術や高額な薬など、医療がより高度化していることも、医療費が増加する要因となっています。

国民医療費、高額療養費の指数変化
(平成10年度を100とした場合)



*高額療養費とは、患者が高額な医療にかかっても、各月の窓口での支払額に所得に応じた上限を設定し、それを超えた金額については保険で負担する制度です。

高額療養費の伸びは、国民医療費の伸びを大きく上回っており、上限額を超えた高額な医療が拡大していることが分かります。

質問3. 人口の高齢化、医療の高度化等により、今後も増え続けると予想される医療費について、あなたのお考えに近いのは次のどれでしょうか。

(一つ選んで☑をお付けください)

<input type="checkbox"/>	①質の高い医療を受けるためならば、保険料が上がるのはやむを得ない。
<input type="checkbox"/>	②医療の内容を見直し、効率化を進めて医療費の伸びを抑制すべきである。
<input type="checkbox"/>	③医療を受ける患者の窓口負担を増やすべきである。
<input type="checkbox"/>	④その他(枠内に自由記載)

4. 医療費適正化のために行っている取組み

- ◎健診後の保健指導や健康相談など、皆様の健康づくりを支援しています。
- ◎ジェネリック医薬品の使用を促進することで、薬代の削減につなげています。
- ◎皆様に健康や医療についての関心を高めていただくことを目的に、年1回医療費の状況をお知らせしています。
- ◎加入者資格の再確認等を行って、資格を喪失している方などへの給付を防ぎ、適正な給付としています。
- ◎医療機関からの請求書(レセプト)を点検することによって、支出の適正化に努めています。

質問4. 協会けんぽは皆様の保険料を使って、上にあげた各種の取組みを行い、医療費の適正化に努めています。これについて、あなたのお考えに最も近いのは次のどれでしょうか。（一つ選んで☑をお付けください）

	①保険料を使ってまで行うことではなく、やめるべきである。
	②費用対効果が見込めるのであれば、お金をかけてもやるべきである。
	③その他(枠内に自由記載)

- ◎ その他、協会けんぽの財政基盤強化のために有効と思われる策についてなど、ご意見がありましたらご自由にお書きください。